



風見集二篇

卷一
終

坤



枯 部

高々や枯園よりむす井 暮つる

光 同

目のつけは枯はまきり垣根 葉

旭 音

立枯や俄に匹を 乾く 海

虫 石

浮雲も空は清く 移る 乾の 秋

こま

一 芳

鞠出しく 麻よりきりぬき 乾の 葉

汗 海

まの 枯や 梢より 雲の 阿し

射 和

遠くや川をさへぬ 人の先 歩山

眼のまめさ 色も落さる 一葉が 瀬水

森よみ 新て有るに ちねの 一葉が 生可

桐の葉も ちねの ちねの ちねの 佳松

桐一葉 ちねの 風は 新り ちねの 一葉

椋ちねの 一葉の ちねの 風の 葉も 誠か

伐て 葉も ちねの つらさ 木樫うね カミ 文芸

嘆き ちねの ちねの 木樫うね 北島

新葉 ちねの ちねの ちねの 十湖

あさ 新葉 ちねの ちねの ちねの 有年

新葉 ちねの ちねの ちねの 南舟

ちねの 新葉 ちねの ちねの ちねの 雲山

馬より 新葉 ちねの ちねの ちねの 漢輝

新葉 ちねの ちねの ちねの ちねの 更障

西風 ちねの ちねの ちねの ちねの 白蓮

蓮池や字は 飛香の 雨の音 響園

こゝちんちん 雪の中は 雪の音 魚月

彩雲の月 白く 稲の音 小笑

一月は 大なる 雪の音 半橋

沼柿の 音は 八年 有所

つらつら 初音 あり 雪の音 芹在

形も 柿の 水は 雪の音 東京 喰者

蓮池 左手 雪の音 上毛 月行

雪の音 雪の音 雪の音 豆園

雪の音 雪の音 雪の音 二 芳

雪の音 雪の音 雪の音 柳風

雪の音 雪の音 雪の音 古心

雪の音 雪の音 雪の音 冷風

雪の音 雪の音 雪の音 二葉

雪の音 雪の音 雪の音 一葉

西へ行く情状を直ぐ日記に於
て追つたが、予に云ふべき事、
酒席やつゞく海に啼き出
人の世は又も如く申す所の
桂下

角力に世人は流れて去るなり
おく雲の所々を龍田の
朝虹の風はあつちを竜田
海

水原におく露を以て居る
物此喜ぶ秋風を何れも
婦の衣や垣物居り上る履
秋風や濁る水は塵をふく
あきうそふく露を以て日
秋風や垣物居り上る履
暮おろす露を以てあはれ
水原におく露を以て居る
物此喜ぶ秋風を何れも
婦の衣や垣物居り上る履
秋風や濁る水は塵をふく
あきうそふく露を以て日
秋風や垣物居り上る履
暮おろす露を以てあはれ
水原におく露を以て居る

又直良田舟新や秋の風 葉有
 素人の咄も 長き秋の山 梅山
 女の面は 暮る 彼も 長秋の水 柳
 森のふに 二現も 一も 秋の山 旭
 秋のふに ありとも ありやふに 二の山 林遊
 阿のふに ありとも ありとも 秋の山 古
 秋のふに ありとも ありとも 秋の山 曉月
 ありとも ありとも ありとも 秋の山 櫓月

溝川秋のふに 葉や 秋の山 葉
 まの ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉
 白ふに ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉
 ありとも ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉
 名月や ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉
 名月や ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉
 名月や ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉
 ありとも ありとも ありとも ありとも 秋の山 葉

柴の序も 杉も 阿久くそ 松月 梅月

た、一人 かくら 誰の子 松の月 文 我書

月と雲 何れも 雲く 雲よ 月行 トフ

雲の月と 雲ふ や 月松 序の序 茶 壽

序の月と 序の 程の 阿久く や 雨の月 雲 然

秋の ふうの ふうの 流石の 月の 程 秋 紅

古戰場 川中島 云々

押さへる ちかふ 掛る や 月の 雲 吳 年

阿久く 月松 杉也 や 茶も 序の 平 臺

阿久く 列 小松 云々 小松 松 貞 丈

出さる 序の 序の 序の 序の 聖 菊 也 昔 川

序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の

序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の

序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の

序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の 序の

出てる是ハ老の友阿る花雪が 玉川
君古しハあさ 霧降り口鼓う船 言風
虫ももももも その中も暮の空 海原
芦花橋工 風のなす中虫口和が 花亭
稿の巻や 望にきまらふ風の巻 芦夕
柳くやのふ日のみ 夕くう 稿の波 柳与
稿前や 暮も 夕の連らき 柳仙
口の巻く 阿る里 稿を掛より暮 夕侯

稿うけや 明けは 夕氣を暮く 柳与
あまの 夕小暮に 紅き 露穂 柳 一味

中山屋

板橋や 飛ぬり 雲の暮 素烟 雪々
野まや 暮は 夕けく 夕あり 植甫
野鳴や 暮きく 夕の夕 夕の夕 柳彦
隣り 夕の 暮の 暮の 夕の 花止

馬子たて渡り如 里能能りし
 文城
 土川存りまて 堀や雨の音
 北園
 神馬や舟一廊り 旗り空
 香明
 言なき空より 舟渡り
 杉楓
 障風や月のうに 存能渡り
 吟昇
 森 時分や 聲の細く 雨能存
 主能
 夢くに 我名残 唯の 下津馬
 兼三
 嵐も 雲あり 斗り 渡り 鳥
 俊文

木つぎや 菊の生る 月能言
 静湖
 浴神り 雲のきり 報り ちり とき
 竹葉
 夜嵐り 雲のきり 報り ちり とき
 鶴山
 夕日 水より 出や ぬり 紅葉報
 我風
 うら 雲たれ 林を 吹散り ちり とき
 五年
 獨り 居や 打し ちり とき 麻の音
 東海

菊の香や 蝶も 若やく 竹日和 一系

古以字致詩却月名う葉如至
 古原も望らく菊の白正り葉
 松葉をまうらきく如葉よあり
 かききくききくききく菊の花
 葉くはハ塔一山後や園能葉
 月夜々心も如菊の古葉
 花所々々葉たの如葉如
 日北まの如葉まに葉のりま如
 松人 花檣 竹志 珠系 舩舟 霜村 羊仙 春地

葉持々人々葉々葉 紅葉物 遊園
 舟て葉々山りうら葉々 秋葉如 月輝
 岩 石々々水々 秋葉 月々々々
 如 如うに口吹け 如う葉 如
 落葉や如の葉 如の如 如
 晴山も 如の如 如の如 如
 糖葉や如の如 如の如 如
 杉風如 如の如 如の如 如
 味 糖味 如 如 如 如
 魯 雪

初雪やふ融ハ 冬をぬ 山は 世に
 春の 雪の 融けの 跡を 残すは 素心
 冬枯や一羽 鶺鴒は 鳥は 旅白
 たし 雪の 下 籠る 冬 籠り 露垂
 飯茶は お湯も 飲ん 冬 籠り 永 願
 のうきぬを 眉の 雲を 下 籠り 柳 考
 ・ 飯 籠
 冬 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り

冬 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り
 素 梅

日 あり や 落葉の 中は 翻作の 琴 磨
 石 あり 神の あり 落葉の 桂 吟
 空 あり 水は 流る 落葉の 春 華

冬 籠

茶 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り
 山 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り
 山 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り 籠り

飯植より水に咲きありては連有
うきつきの花を咲かすは花に花
訪ふ人より花を咲かすは花に花
隣りうら 咲くは花に花に花
牡丹二葉の花に花に花
七葉の花に花に花に花
花に花に花に花に花に花
秋に花に花に花に花に花
南有

年寄の手にて 阿の古花に
花に花に花に花に花に花
水仙や花に花に花に花
水に花に花に花に花に花
千鳥啼中一花に花に花
素白

如月も千尋の啼や 風二日 秋元
 森る月よちりける 沖乃ちりや 荒尔
 群をく集る千尋り 影や西のり 石新
 秋風や楠の空海麻粒上より 栗岡
 鴨の啼方へ 筆を以て 幾うか 淡水
 うもさくや 秋も江まきん山の影 繁弘
 木に常る 風の 鳴り 鴨の 鳴り 得山
 水香に 澄るも 安き 都 うか 静翁

秋のやとくく 無心 あり 守考
 以つくも 人よ 暮るり ぬき の 枕 柏泉
 あり 啼て 日 能 暮 や 息 三十三丈 山 元
 夜の 鳴る 泣 松よ ぬき 一 ち 秋 暮 甘 穂
 秋の 森る 音 走る くら 暮 暮 香 五 考
 秋 秋乃 好の 垣 松や 柔 粒 ち 於 久 院
 山の 月 暮る 露 暮る 露の 玉 玉 重

雪の山とくく 在く 所は 泉溪
 雪の雲 鶴の 羽 暮ま 暮ま 夕暮 空 水
 雪の山とくく 在く 所は 泉溪
 雪の雲 鶴の 羽 暮ま 暮ま 夕暮 空 水
 雪の山とくく 在く 所は 泉溪
 雪の雲 鶴の 羽 暮ま 暮ま 夕暮 空 水

雪の山とくく 在く 所は 泉溪
 雪の雲 鶴の 羽 暮ま 暮ま 夕暮 空 水
 雪の山とくく 在く 所は 泉溪
 雪の雲 鶴の 羽 暮ま 暮ま 夕暮 空 水
 雪の山とくく 在く 所は 泉溪
 雪の雲 鶴の 羽 暮ま 暮ま 夕暮 空 水

野の月より 登相 くらがる 雲より 花 叢 花

妙哉山より 花

物 幸は 花より 花より 花より 神の 花 梅 花

花 花より 花より 花より 花より 花より 梅 花 白

人 花より 花より 花より 花より 花より 雲 花 洞

埋 花より 花より 花より 花より 花より 月 花 雄

花 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 吟

花 花より 花より 花より 花より 花より 一 花 雅

花

鞭 や 人 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 重

紙 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 女

花 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 正

花 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 民

花 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 大

一 人 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 富

花 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 舍

花 花より 花より 花より 花より 花より 花 花 光

寒月やふれしつきの細路は 山
 草や人の集まらぬ 露 泉
 水汲り小庵のまゝや 湖
 松や咲のまゝに香を籠ま 茂村
 手断るも 木も 空梅も あり日か 年山
 手の縁を 試さす 之をり 喰 風松
 古、 枅や 雪の上よ 啼き 古 枅
 古 枅 古

雁ついで 月よの あり 古
 馬も 古を 踏む 年 意 雨 松

解の画子

吾ら 所も ついで 年 用 意 月 意
 大之十日 隣り 意 思 枅 意
 大晦日 落り 中 におり 意 意
 帯 枅 年 の 意 枅 枅 意

依きしりまきし 柳の青きが 雪堂
 控くやんの外に 風の音 魯有
 大空のつと 家出き 鹿が イカハ 梅 雅
 よくまきい ぬき イカハ 城も 雲りり 雪 晴
 長閑さ如 華梅くま 氣のゆきり 美川
 春風や あり 茶の 所名の 玄すけん 本 木
 誰に 控く 鶯即の うちり 雲の 山 林 青
 藝 曉て 雨さし 雲り 桂うね 春 晴

海棠の 静さ 休ふうりり 子 柳 有
 草香に 氣 啼あり 雨 燈ひ 松 雨
 雨云の 傳 出る 甲し 威し 浮生が ムサシ 障 湖
 夕晴の 山より 香の 立 灯月が 花 露
 都 ムサシ 香る 能 香あり 何 ムサシ 深 龍
 雲の 影の 外に 影も くの 牡丹が 緋 友
 輕川 岸や 舟の上 新よ 初 花子 貞 樹
 二三 ムサシ 試て 雲る 新 葉 ムサシ 花 招 雪

若菜一々志り 秋うら 松穀が 松江

うらむまの巻をささく 白樫の夢 白山

すしの巻や何れうらうら 只 程文

五月雨や巻の上を解るの法ふ 一程巻

物陰の巻も 寄り 秋身州 彦和

深菜扇平抱らせり 扇りり 老柏

山の上あり 雲の峰 桂女

鳴り川河より 小流る夕日 白 松島

物巻の耳に まる 秋巻が 一関

秋巻 露又つる 秋巻の巻 本二

鳥の巻に 巻を巻く 散紅葉 素若

えたら 秋巻 巻物と月と星 一光

と川 雪や 湿枕 巻は 晴うら 梅園

静巻る 星うら 巻うら 明る巻 桂水

巻の雨 雪より 巻うら 静うら 之引

巻巻る 巻の巻うら 玉子巻 菊庭

能登國一宮
氣多神社 祭神
大田主神

鴨祭之圖



梅田守
印

と
南
あ
流

旧式轉系

轉系 十月午日の祭り也 但新嘗祭の翌日也

際系 新嘗祭の図

取轉系 亦月丑の日の祭儀也 今麻高轉系神門 今南高村

轉浦の神戸宮 一人外より四宮と云者あり 此若潔秋一

轉浦に出て海舟へさし 出する祭り又 睡所 轉系紙三尺

斗り乃 作羅をとりて 轉の音小 纏ひて 音なり 然して 葺を

りつて 糸形の 籠 廻り 四尺八寸 を作り 葺の蓋を 度小 糸織り け

芟 實作 輪作を 細籠 して 結 正 堅め 蓋を 記 轉系 の 胸 小

結まつけの籠に納ま結の端一を籠の上端に繋ぎ置あり諸
共一人の神戸名上下を記し一を四角形の宅に集り轉島に
神邊を執り者並命を以但轉をみるハ
ふに其の成ニ

寅の日神戸共一人の内年妻の者二人号を轉を一人ハ轉をの籠を
え掛る云背負ひ一人ハ籠に副て轉浦を登りす以時角形村老若急く
見送るまより所の尾に今七層中斷より轉をを背負ふより
郡宰より刻る刻ち没より轉をのハ初穂とて白殺一升二合
中折紙一束着洞百石を執上の古縁にまより所のハ所を巡り置置者ハ
轉浦端より入りて其のハ二派を但轉をの籠ハ高の上同ニ成
置一りハ三度ハ脚同也
辰の日巳の刻より入り新のハを登り一良川村より者

巳の日巳の刻より入り良川村を登り一合丸村宿那老神邊石
神轉より轉をの籠に木縁四手を立置くと又合丸村没より轉浦端
七十五尾を執りまは日末の上刻は一宮氣多神社小刻より一門は
右邊より但轉をの籠を中門の右押は成り轉をを登
初邊を一人ハ高橋對する方ハある諸橋對馬轉をを來を石
つと梅井登成利の宅より入り伺候し轉を共今刻より入りつと
轉をの所轉轉一處を記しを執りてふ云々初唯
ハ執上物を
文云取らニ轉をを來を石つと仰り轉をの初邊より一は刻高より
葉内より入りて轉をを來を石連來りて新物を記すへ一と云
對する轉をを來を石稱唯し一返出はまより一長山久磨元七編院の宅
渡橋ありの宅より
入り并房を把を執りて作法梅井家と同し一取らニ夕方轉をを來

次 正堂 祭壇の内陣の宮外神友八太麻の首の左側小正堂

次 玉津江事

次 再拝 友成 柏手 友成

次 阿知女 神乐

次 秋 神鳥 友成 友成 神鳥を拜せし時 小神の行方 神唯一 友成の西側の極

出 神鳥を多儀と云ふ 神鳥を多儀 神鳥を多儀 友成の御座小進 神鳥の服を

神鳥小進 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

神鳥 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀 神鳥を多儀

末の方の御座小進つて御座

次 再拝 友成 柏手 友成

次 祝詞

次 浅路 神乐

次 再拝 友成

次 退出

多友田驛田井松郡氷碓宅上
多友田驛田井松郡氷碓宅上
多友田驛田井松郡氷碓宅上
多友田驛田井松郡氷碓宅上

多友田驛田井松郡氷碓宅上
多友田驛田井松郡氷碓宅上

多友田驛田井松郡氷碓宅上

多友田驛田井松郡氷碓宅上
多友田驛田井松郡氷碓宅上

多友田驛田井松郡氷碓宅上

日本魂

安んずる

安んずる

海山

安んずる

上毛甘樂郡妙義白井氏

安んずる

安んずる

安んずる

安んずる

安んずる

上毛甘樂郡上丹生村金井喜六

浦の戸は 寺乃

風腔

郭一乙

上宅北甘樂郡大塩澤村田賀井氏

金峯山途中

石楠木やま

早稲とら下

琴 陸

上宅北甘樂郡磐戸村佐藤量平

裾 川 女

彌 抄 中 々 抄

戸 籍 の 中

西 萩

上 毛 吾 妻 郡 本 宿 中 村 井 半 九 郎

お ー ー ー ー の

自 白 や

ト 畧

か ー ー ー ー 乃

ま ー ー ー ー 空

上 毛 碓 氷 郡 原 村 上 原 畧 太 郎

今乃

願舟

咲こ婦

をぬや

日陰の苔如水

上七吾妻大拍村加部喜一郎

閑多の田よ

末廣の所

春如水

磨圃

駿河國駿東郡東熊堂村清牧太郎

くまのめ
きんぎょ
鴨の音
待年

上毛吾妻三郡嶋村高橋瑛吉

山
あま
海
あり車
錦糸

上毛吾妻三郡嶋村石村菊童郎

新日也

可染如

嬉友

后川

袖乃小

上毛西群馬郡下小塙村小林庄太郎

うららの

喜喜

梅の志

深園

上毛吾妻郡中之條町中七郎平

多のり候

七十四

家井

り候也

平

上毛西群馬郡富村永井佐平

り候也
嶺をむ之朝嵐

首
園
風
松

七十四

上毛西群馬郡富村松澤善次郎

山吹の

花山

新子淋

岩の石

上毛西群馬郡富岡村高橋安太郎

流連する

水

を

中絶

上毛吾妻郡三嶋村小池熊八

降る河

設け日知の

小春の船

錦里

上毛碓氷郡西秋間村学校在勤若林氏

夕風

の岸石

波うへ雛子の多

秋園

上毛碓氷郡西秋間村嶋崎佐七

常之常之山

高如の山

しりしり

旭殿

越後郡山邊村里中飛虎八

灌佛也志の

有年

方人

捨堤

上毛佐位郡伊勢崎町觀月祐願

猿人。

有主の書

了部の魂

一雅

三鵬瀬梁村岡豊下郡米碓毛上

月夜 玉集

あや

木の字

是の

助之周木茂村平郡妻吾毛上

平物印是部

轉不地之

玉桂

服多子道之

丁澤之如出

上毛碓氷郡中野谷村多胡啟治

平多孔有之也

頃多之也

雲の井

玉高

上毛碓氷郡中野谷村多胡彦平

啼

い

如

家

い

い

閑古鷹

敬久原松町代堰驛崎高毛上

